

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第21回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「白鳥貯木場」その二

白鳥貯木場は「水中貯木場」に分類される施設であり、水に浮かべた丸太が少ない労力ですぐに出入れされるとともに、水に浸けておくことでの急激な乾燥の防止、防虫、防菌などの効果を期待したものです。また、伝統的な木造建築ではある程度の期間、水に浸けたほうが良い木材だという考え方もありました(後に十分乾燥させて使います)。



昭和四十六年、堀川を運ばれるイカダ



昭和31年頃、水上での丸太の計測(検知)作業

白鳥貯木場では各地から集まる丸太が荷受けされ、計測・仕分をし、長さや太さなどのまとまった区分ごとに積み上げる「極積」、販売、引き渡しなどの作業が行われていました。時代とともにイカダを引っ張るタグボート

や、丸太を持ち上げる起重機・クレーン・ログローダなどの機械も使われるようになりますが、不安定な水上で、丸太を引っ掛けて動かす竹で出来た長い柄の「トビ」を持った「筏師」達が働く風景は水中貯木場ならではの独特の風景でした。



昭和46年、トビを持って移動する筏師

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。

